



interview Vol.7

東京土木施工管理技士会

優良技術者インタビュー

土木技術者の日頃の研究・研鑽を称え、技術者表彰規程に基づき、優良技術者の表彰を毎年行っています。今年度受賞された長谷川さんに工事のポイントや日々の業務について伺いました。



成友興業株式会社
長谷川 達也さん
(雨水幹線整備工事
現場代理人兼主任技術者)



受賞 雨水幹線整備工事

主な工事内容

**あきる野市草花地区の豪雨対策として、
多摩川へ雨水を排水する
コンクリート函体を地中に設置する工事**

全工事期間無事故・無災害で竣工。厳しい環境下で既設埋設物や雨季の出水などに対応しつつ、地域住民との折衝にも誠意をもって臨み、事業を完遂。あきる野市の優良工事として表彰された。これらの実績から優良工事技術者表彰受賞に至った。



「“多くの人の役に立つもの”を
つくりたい」という想いから
土木の道へ



学生時代、通学途中で工事現場をよく見ていたのですが、そこで動いている重機とか機械が好きで、そこから興味を持ちました。何もなかったところに段々と建物が出来上がって、その場所が生まれ変わっていくようなところが面白いと思いました。

大学ではコンクリート工学を専攻していて、何となくダムとかトンネルとか建設現場で働くことをイメージしていましたね。道路などのインフラ設備はたくさんの人のためになるので、そこに魅力を感じ土木の道を選びました。

「意味のない工事はない」見えない
部分の工事でも、効果を感じる



今回、自分が考えた工法が表彰という形で評価して

もらえたというのは自信につながります。その方法を別の現場で生かして、そこでもいい評価をいただいたので、現場が変わっても培った知識・経験は、生きるのだと確信できました。

しかし、同じことばかりやっても飽きてしまうので、新しいことにどんどん挑戦していきたいですね。

土工の仕事は自分がつくったものが見えなくなること多いですが、例えば大雨でこれまで冠水していた道路が冠水しなくなるとか、自分のやったことがピンポイントに成果として感じられた時は、やってよかったと思いますね。みんなが見える部分を施工して「きれいになったね」と言われるのも、もちろんうれしいのですが、見えない部分でも工事をするので変化が見えるので、やっぱり「意味のない工事」というのはないと思います。

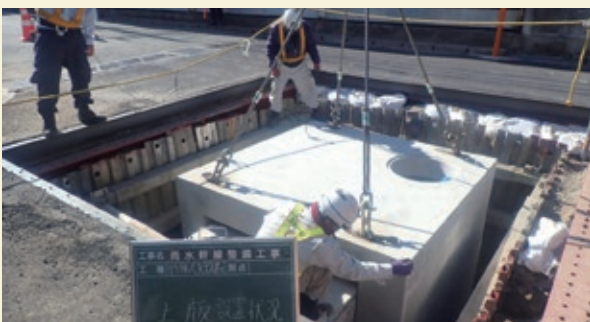
住民の暮らしを守る工事 周囲とのコミュニケーションを大切に



今回の工事は、雨水を多摩川に排水するためのボックスカルバートを地中に設置するというもので、周辺に側溝があったり地面の下に古い污水管があったり、とにかく狭い場所での施工でした。使う重機の選定にしても、大型のものは狭くて入れられないですし、かといって小型にすると出力が足りなくて重要な部材を吊れないなど、その検討には苦労しました。

現場は掘れば出てくるというくらい水が多くて、そこに雨が降ると水位がさらに高くなってしまいますので、雨季はほとんど仕事にならなくて工期の調整も大変でした。

それ以上に気を遣ったのが、住民の方々とのコミュニケーションです。道が狭い中で道路の大半を開削するような状態だったので、工事期間中のほとんどが通行止めになって車が出せなくなって、代わりの駐車場を用意するなど、そういった調整も必要でした。工事は公共のためにやっていますが、関係のない人にとってはやはり迷惑になってしまうので、これはポスティングでは伝わらないと思って、1軒ずつ回って自分で説明しました。大変でしたが、後々のことまで考えたらそのやり方がよかったのかなと感じます。



特殊人孔設置作業の状況
正確かつ安全に設置できるよう現場を管理している

休日は「電波の届かない場所」で 日常から解放される



休みの日はなるべく日常生活から離れ電波の届かないところに行って(笑)、釣りやキャンプをして過ごしています。釣りだったら堤防に行つてのんびり海釣り、キャンプでは山奥に行きあえて不便な状況を楽しむという感じです。

釣りもキャンプも、自分次第で過ごしやすくなりますよね。例えば釣りの仕掛けを自分なりに工夫して、どうやったら釣れるかを考える過程が面白いです。

若い技術者でも活躍できる業界 若手との接し方にも配慮



若くても、いろんな現場を経験して引き出しを増やしていけば活躍できるのが建設業界だと思います。

この現場では入社1年目の若手職員と仕事をしていましたが、自分が心掛けているのは「話しかけられやすい」ということです。何か悩みがあったり相談したいことがあったり、そういう時に「この人には言いづらい」と思われちゃいけないと思います。なので普段から割と気軽に話せるような雰囲気を中心掛けています。

ただこの仕事は、自分で考えて成長していくことも重要なので、1から100まで教えるのもその人のためにならない。そのバランスは難しいですが、いきなり聞くのではなく、まず自分の意見を持って「こうしたいんですけどどうでしょう」とか、そういう姿勢も持ってもらいたいですね。



あきる野市優良技術者表彰式の状況